

活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会

道北技術士委員会

文責：道北技術士委員会 幹事 山口 忠幸

令和 7 年度 定期総会および研修会 開催報告

はじめに

道北技術士委員会では定期総会および研修会を開催しました。当日は会員、会友など総勢 35 名の参加者が会場に集まり、高桑代表幹事は WEB での参加となりました。以下にその概要を紹介します。

日時：2025 年(令和 7 年)6 月 28 日(土)

14:00～17:30

場所：道北経済センター 6 階研修室

1. 研修会

高桑代表幹事による開会の挨拶(WEB)の後に研修会が開催されました。



写真-1 道北技術士委員会 高桑氏

演題 1：技術士を巡る最近の動向 2025

講師：道北技術士委員会 幹事 佐藤 勉氏

概要：以下の 5 点について解説を頂きました。

- (1) 令和 6 年度 技術士一次試験結果
- (2) 令和 6 年度 技術士二次試験結果
- (3) 日本技術士会北海道本部の会員数
- (4) 令和 6 年度総括本部(理事会等)からの話題
- (5) 日本技術士会北海道本部の主な動向

演題 2：北海道におけるエアモビリティの活用提案と現在の状況

講師：株式会社トクラボラトリ

代表取締役 徳永 誠氏

概要：以下について講演を頂きました。

(1) 会社概要

急速な人口減少によって維持が困難になるインフラ問題に対応するため、長寿命化と効率的な点検を柱に事業展開を行う新会社です。また、ドローンタクシーによる人・物の移動や観光にも注力しており、特に中国製 eVTOL の活用により、既存インフラに依存しない交通手段として地域活性化を目指します。

(2) エアモビリティで地域を支える

目的：道路インフラに頼らない新たな移動手段として、地域活性化・観光振興に貢献

使用機体：中国製「EH216-S」2 人乗り自動運転ドローン(eVTOL) 航続距離 35km、巡航速度 100km/h、飛行時間約 21～40 分 固体電池での飛行(航続時間 60～90%向上)

地域活用例(北海道)：滝川を拠点に観光地(赤平炭鉱、芦別ホテル、富田ファーム)を短距離で結ぶ
地域資源を“空から”つなぐことで観光価値を向上
今後の展望：自治体や企業と連携し、「空飛ぶクルマ」の社会実装を目指す。



写真-2 講演するトクラボラトリ 徳永氏

ドローンの特許は、その 85% を中国が取得しているため、国産のドローン開発が進まない原因となっているようです。空飛ぶ車が実用化される未来に向け様々な取り組みや活動が行われていることを知ることができました。

演題 3：技術士会活動がつくるミライ

講師：技術士会北海道本部幹事

株式会社エムリンク札幌 代表取締役

まちづくり推進室長/保育部門長

株式会社 LinG 代表取締役 永井登茂美氏

概要：以下のテーマで講演を頂きました。

(1) 技術士会活動と私のかかわり

技術士資格取得をきっかけに、技術士会へ入会（2005 年）青年技術士交流委員会（2013 ～ 2014 委員長）北海道本部幹事、青年技術士交流委員会卒業後は社会活動委員会（幹事長、委員長）、技術者のミライ研究委員会、エンジョイサイエンス研究委員会、倫理委員会と様々な委員会で活動しています。

(2) 技術士会活動から得たもの

全国の同世代や異なる分野の技術者をつなぐことで、多様な視点や知識を吸収し、自己研鑽を深めることができました。様々な委員会での企画・運営経験を通じて、リーダーシップも養われました。学生や地域との交流を通じて社会貢献の意義を実感し、技術者としての責任や倫理観も強く意識するようになりました。また、家族の理解や支えが得られる活動環境により、継続的かつ楽しく関われることも大きな成果であり、これらの経験は、技術者として、人間としての幅を広げる機会となりました。

(3) 技術士会活動の可能性

技術士会活動には、世代や分野を超えた交流を通じて視野を広げ、自己成長とキャリア形成を支える力があります。地域活動や学生支援、異業種との連携を通じて社会に貢献でき、技術者の存在意義を高める場でもあります。活動を通じて得られるつながりや経験は、個人の未来だけでなく、地域社会や業界全体の発展にも寄与する可能性を持っています。



写真-3 講演する技術士会北海道本部幹事 永井氏

2. 総会

小椋幹事の挨拶後に、議長に選出された長谷川幹事の進行により 2 項目の報告が行われました。

第 1 号報告：令和 6 年度事業報告および決算報告

第 2 号報告：令和 7 年度事業計画案および予算案

令和 6 年度の事業等の活動紹介を行い、決算報告を行いました。令和 7 年度の事業計画としては、令和 6 年度に諸事情により実施できなかった現地研修会について、本年度は実施する計画であることを報告しました。

本年度は、役員改選期に当たり高桑氏から小椋氏へ代表幹事が交代し、また、新任幹事として菊田氏、金子氏が就任しました。退任された高桑氏、長谷川氏には、長年にわたり道北技術士委員会の運営に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。



写真-4 定期総会および研修会参加者の集合写真

おわりに

普段なかなか顔を合わせる機会のない方もいる中、会員相互の交流を深めるとともに、最新のエアモビリティに関する情報や技術士会活動の広がりに触れることができ、大変有意義な時間となりました。ご講演いただいた講師の皆様、そしてご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。